

Oracle® Virtual Desktop Infrastructure

Release 3.4 リリースノート

ORACLE®

E35190-01
2012 年 4 月

Oracle® Virtual Desktop Infrastructure: Release 3.4 リリースノート

Copyright © 2008, 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

Oracle Virtual Desktop Client ソフトウェアは、Oracle Software Delivery Cloud (<https://edelivery.oracle.com>) から個別にダウンロードする必要のある Oracle の Sun Ray Software および Oracle Virtual Desktop Infrastructure ソフトウェア製品に含まれているコンポーネントです。Oracle Virtual Desktop Client の使用は、Sun Ray Software および Oracle Virtual Desktop Infrastructure に付属するかそれらに適用される Oracle ソフトウェアライセンス契約に従います。

目次

はじめに	v
1. Oracle VDI Release 3.4 の新機能と変更点	1
1.1. このリリースの新機能	1
1.2. このリリースの変更点	1
1.3. Oracle VDI ソフトウェアについて	4
2. 既知の問題	7
2.1. Oracle Solaris プラットフォームに VirtualBox をインストールするときシステムがハングアップする (Sun バグ ID 7116094)	7
2.2. Oracle Linux プラットフォームでは Hyper-V デスクトッププロバイダ用のテンプレートをインポートできない (バグ ID 12307034)	7
2.3. 「コンソールはすでに使用されています」という警告が表示されるべきときに表示されない (バグ ID 12364760)	8
2.4. ストレージがシャットダウンされると仮想化ホストがクラッシュする (バグ ID 13557337)	8
2.5. 奇妙な Bash プロンプトによって SSH 接続が切断される (バグ ID 13572569)	8
2.6. テンプレートのインポート中にストレージホストが応答していないと表示される (バグ ID 13639979).....	8
2.7. VirtualBox ユーザーが root でない場合、ストレージの追加に失敗する (バグ ID 13681074)	9
2.8. vb-install スクリプトですべてのユーザーの VM がチェックされない (バグ ID 13732353)	9
2.9. 16T バイトより大きいストレージの容量が 16T バイトしかないように表示される (バグ ID 13824735)	9
2.10. 正しく構成されていない場合でも Sun Ray Software のパスワード変更の成功メッセージが表示される (バグ ID 13827545)	9
2.11. パスワードのリセット中にパスワードが端末に表示される (バグ ID 13827959)	9
2.12. テンプレートファイルがルートディレクトリにあるとテンプレートのインポートが失敗する (バグ ID 13914962)	10
2.13. NLA が有効になっている RDP プローカで uttsc が機能しない (バグ ID 13924760)	10
2.14. 追加操作の進行中に VirtualBox ホストをデスクトッププロバイダに追加すると問題が発生する (バグ ID 13944126)	10
2.15. ストレージを保守モードにするときに umount が失敗すると、試行し続ける (バグ ID 13970448)	10
2.16. Red Hat カーネルを使用する Oracle Linux ホストで Windows 7 デスクトップが起動に失敗する (バグ ID 13974640)	10
3. フィードバックとサポート	13
3.1. フィードバックの提供と問題の報告	13
3.2. Oracle スペシャリストによるサポートへの連絡	13
3.3. サポートバンドル	13

はじめに

『Oracle Virtual Desktop Infrastructure リリースノート』では、Oracle Virtual Desktop Infrastructure (VDI) リリース 3.4 の新機能、変更点、および既知の問題のサマリーを提供します。

対象読者

このドキュメントは、ユーザーにデスクトップを配備できるように Oracle VDI をインストールおよび構成するシステム管理者向けに用意されています。このドキュメントでは、読者が Web や仮想化テクノロジーに精通し、UNIX (Linux を含む) や Windows などのオペレーティングシステムを全般的に理解していることを前提としています。

ドキュメントの構成

このドキュメントは次のように構成されています:

- [1章 Oracle VDI Release 3.4 の新機能と変更点](#)には、このリリースの新機能および変更点のサマリーが含まれています。
- [2章 既知の問題](#)には、このソフトウェアの既知の問題が記載されています。
- [3章 フィードバックとサポート](#)には、Oracle Virtual Desktop Infrastructure (VDI) 製品に関するフィードバックの提供方法およびサポートへの問い合わせ方法の情報が記載されています。

ドキュメントのアクセシビリティについて

アクセシビリティに対するオラクルのコミットメントの詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> の Oracle Accessibility Program Web サイトを参照してください。

Oracle Support へのアクセス

お客様は、My Oracle Support にアクセスして電子サポートを受けることができます。詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> を参照するか、耳が不自由な方は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

関連ドキュメント

この製品および関連製品のドキュメントは、次の場所で入手できます:

- Oracle Virtual Desktop Infrastructure: <http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/virtualdesktop/docs/index.html>。
- Oracle VM VirtualBox: <http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/virtualbox/documentation/index.html>。
- Sun Ray Software およびハードウェア製品: <http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sunrayproducts/docs/index.html>。
- Oracle Secure Global Desktop: <http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/securedesktop/docs/index.html>。

表記規則

このドキュメントでは次の表記規則を使用します:

表記規則	意味
太字	太字は、操作に関連するグラフィカルユーザーインターフェース要素、または本文中や用語集に定義されている用語を示します。
イタリック	イタリックは、本のタイトルや、ユーザーが特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
モノスペース	モノスペースは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。

ドキュメント作成日: 2012-08-10 (revision: 1199)

第1章 Oracle VDI Release 3.4 の新機能と変更点

目次

1.1. このリリースの新機能	1
1.2. このリリースの変更点	1
1.3. Oracle VDI ソフトウェアについて	4

1.1. このリリースの新機能

Oracle Linux プラットフォームでのストレージの機能拡張

Oracle Linux プラットフォームの Oracle VM VirtualBox デスクトッププロバイダに 3 つの新しいストレージタイプのサポートが追加されました:

- ローカルストレージ: 仮想化ホスト上の任意のローカルディレクトリを使用できます。
- ネットワークファイルシステムストレージ: 仮想化ホストでマウントまたは共有できる任意の分散ファイルシステムを使用できます。
- iSCSI ストレージ: iSCSI プロトコルをサポートしている任意のストレージを使用できます。

既存のストレージタイプである OpenStorage と Solaris ZFS ストレージは引き続きサポートされ、Sun ZFS ストレージと呼ばれるようになりました。

Oracle Linux プラットフォームでは、仮想ディスクは VirtualBox コマンド行を使用してクローニングされるようになりました。Oracle Solaris プラットフォームでは、ZFS クローニングが引き続き使用されます。

使用可能なストレージタイプとその使用方法が異なるため、Oracle VM VirtualBox デスクトッププロバイダの仮想化ホストでは同じオペレーティングシステムを使用することが必要になりました。Oracle Solaris と Oracle Linux の仮想化ホストを混在させることはできなくなりました。

詳細については、「[ストレージ](#)」を参照してください。

デスクトップの自動サイズ変更

ユーザーが Sun Ray クライアント間でホットデスクを行うと、デスクトップセッションは自動的に正しい解像度にサイズ変更されるようになりました。

1.2. このリリースの変更点

サポートされるプラットフォームの変更

このリリースでは、サポートされるプラットフォームが次のように変更されました:

- x86 プラットフォームの Oracle Linux (64 ビット) での Oracle VDI および Oracle VM VirtualBox: Oracle Linux リリース 5.7 がサポートされるようになりました。

[バグ ID 13974640](#) のため、VirtualBox ホストのプラットフォームとして Oracle Linux を使用する場合は Unbreakable Enterprise Kernel を使用する必要があります。Red Hat カーネルはサポートされていません。

- x86 プラットフォームの Oracle Solaris (64 ビット) での Oracle VDI および Oracle VM VirtualBox: サポートされる最小のリリースが Solaris 10 リリース 09/10 (update 9) になりました。
- VMware vCenter デスクトッププロバイダ: VMware vCenter サーバー 5.0 がサポートされるようになりました。

Sun Ray オペレーティングソフトウェア (クライアントファームウェア)

Sun Ray Software リリース 5.3 からは、Sun Ray オペレーティングソフトウェア (以前の Sun Ray クライアントファームウェア) は Sun Ray Software に含まれなくなり、[My Oracle Support](#) から別途ダウンロードする必要があります。

Oracle VDI に含まれている Sun Ray Software リリースの拡張機能をすべて利用するために、Sun Ray クライアントのファームウェアを更新するようにしてください。さらに、新しい Sun Ray クライアントには最新のファームウェアが含まれていない可能性もあり、更新が必要な場合もあります。

最新の Sun Ray オペレーティングソフトウェアの詳細については、『[Sun Ray Software 5.3 リリースノート](#)』を参照してください。

Sun Ray クライアントの Sun Ray オペレーティングソフトウェアを更新する方法の詳細については、『[Sun Ray Software 5.3 管理ガイド](#)』を参照してください。

Sun Ray オペレーティングソフトウェアに関するサポート関連の質問については、My Oracle Support の [ナレッジドキュメント ID 1448410.1](#) を参照してください。

ログインダイアログおよびデスクトップセレクトタの変更

このリリースのログインダイアログとデスクトップセレクトタに対する変更は次のとおりです：

- 複数の Oracle VDI Center がどのように構成されているかによって、ログインダイアログおよびデスクトップセレクトタの画面が多少異なって表示されるようになりました。違いについては、『[グローバル Oracle VDI Center について](#)』を参照してください。
- ユーザーが Windows デスクトップに接続するときに、ログインダイアログに NetBIOS ドメイン名 (デフォルト) と完全修飾ドメイン名 (FQDN) のどちらを入力する必要があるかを、プールごとに制御できるようになりました。たとえば、NetBIOS 名がキオスクセッションで使用される短縮ドメイン名と同一でない場合、Windows XP デスクトップのプールに対してこの設定の変更が必要になることがあります。この設定を変更するには、Oracle VDI 管理 GUI の「プール設定」>「ログイン」にある「ログイン」パネルで、「完全修飾ドメイン名を使用」チェックボックスのチェックマークを付けるか外します。

プールの Sun Ray RDP 設定

プールの Sun Ray RDP 設定で、グローバルロケールのオプション (-I) が削除され、「セッション言語」(-G) オプションと「キーボードの配列」(-Y) オプションに置き換えられました。

アップグレードすると、「セッション言語」および「キーボードの配列」オプションは「グローバルロケール」オプションの以前の値に設定されます。

デスクトッププロバイダからのストレージの削除

デスクトッププロバイダからストレージを削除するには、まずストレージを保守モードにすることが必要になりました。これにより、Oracle VDI はデスクトップを別のストレージホストに移行でき、必要な場合はプロバイダホストからストレージをマウント解除できます。ストレージが保守モードになったら、削除できます。同様の理由から、デスクトッププロバイダを削除するには、まずストレージを削除することが必要になりました。

Sun Ray キオスクデスクトッププロバイダ

デフォルトでは、Sun Ray キオスクデスクトッププロバイダを使用しているときに Oracle VDI ユーザーパスワードを標準入力から読み取ることはできなくなりました。キオスクセッション記述子で [VDA_SSO_AWARE](#) 環境変数が [true](#) に設定されている場合に、キオスクセッションプロセスによってパスワードを標準入力から読み取ることができます。

VirtualBox Guest Additions のバージョン情報

デスクトップにインストールされている Oracle VM VirtualBox の Guest Additions のバージョンが Oracle VDI Manager とコマンド行に表示されるようになりましたが、表示されるのはデスクトップまたはテンプレートが実行されている間だけです。

会社の複数の電子メールアドレスドメイン

会社の「電子メールアドレスドメイン名」設定を使用すると、ユーザーが各自の電子メールアドレスでログインできるようになります。会社に複数のドメイン名を関連付けることができるように、ドメイン名のコンマ区切りのリストを指定できるようになりました。

プールの新しい domain-cleanup プロパティ

プールの新しい `domain-cleanup` プロパティが追加されました。これが `disabled` に設定されている場合、デスクトップが削除されたときに Oracle VDI は Active Directory からコンピュータオブジェクトを削除しません。

Oracle VDI Center を構成するための新しいプロパティ

Oracle VDI Center を構成するための新しいプロパティが 2 つ追加されました:

- `srs.primary.host` プロパティを使用すると、Oracle VDI Center の Sun Ray プライマリサーバーを指定できます。
- `srs.primary.autoconfig` プロパティを使用すると、フェイルオーバー時の Sun Ray プライマリサーバーの自動再構成を制御できます。

詳細については、「[Oracle VDI Center の Sun Ray プライマリサーバーの構成](#)」を参照してください。

組み込みの Oracle VDI MySQL サーバーデータベースへの SSL 接続

Oracle VDI サービスは、組み込みの Oracle VDI MySQL サーバーデータベースに SSL (Secure Sockets Layer) を使用して接続するようになりました。

Oracle VM VirtualBox に Apache Web サーバーは不要になった

Oracle VDI では、VirtualBox Web サービスに対する SSL および HTTP 認証のプロキシとして Apache Web サーバーは使用されなくなりました。VirtualBox Web サービスは SSL と認証をネイティブにサポートするようになり、これは `vb-install` スクリプトで VirtualBox をインストールしたときに自動的に構成されます。

オペレーティングシステムの制約によって root ユーザー以外は制限付きポートにバインドできないため、この変更の副作用として、VirtualBox ユーザーとして root ユーザー以外を選択する場合は、SSL ポート番号をポート 1024 以上にする必要があります。デフォルトでは、ポート 18083 が使用されます。

vda provider-add-storage コマンドは非推奨になった

このリリースでストレージが変更された結果として、`vda provider-add-storage` コマンドは非推奨になりました。代わりに、次のコマンドのいずれかを使用してください:

- `vda provider-add-storage-zfs`: Oracle VM VirtualBox または Microsoft Hyper-V デスクトッププロバイダの Zettabyte File System (ZFS) ストレージプールを追加します。
- `vda provider-add-storage-iscsi`: Oracle VM VirtualBox デスクトッププロバイダの iSCSI ストレージを追加します。
- `vda provider-add-storage-networkfs`: Oracle VM VirtualBox デスクトッププロバイダのネットワークファイルシステムストレージを追加します。
- `vda provider-add-storage-local`: Oracle VM VirtualBox デスクトッププロバイダのローカルディスクストレージを追加します。

ピーク時を管理するための新しいコマンド

デスクトッププロバイダのピーク時をコマンド行から管理できるようになりました。新しいコマンドは次のとおりです:

- `vda provider-getpeaktimes`: デスクトッププロバイダのピーク時のプロパティを一覧表示します。
- `vda provider-setpeaktimes`: デスクトッププロバイダのピーク時のプロパティを編集します。

コマンドは、Oracle VM VirtualBox、VMware vCenter、および Microsoft Hyper-V デスクトッププロバイダに対してのみ有効です。

1.3. Oracle VDI ソフトウェアについて

Oracle VDI は、仮想化、ユーザーディレクトリ、データベース、およびデスクトップアクセスソフトウェアを使用する階層型ソフトウェアソリューションです。

ソフトウェアパッケージには次のコンポーネントが含まれています:

- Oracle VDI リリース 3.4
- Sun Ray Software リリース 5.3
- MySQL Server リリース 5.1.50
- Oracle VM VirtualBox リリース 4.1.14

Oracle VDI の要件とプラットフォームサポート

このリリースの Oracle VDI の要件およびサポートされている項目の詳細は、次を参照してください:

- [Oracle VDI のインストール要件](#)
- [Oracle VDI の更新要件](#)
- [サポートされているユーザーディレクトリ](#)
- [Oracle VM VirtualBox の要件](#)
- [Microsoft Hyper-V の要件](#)
- [Microsoft リモートデスクトップサービスの要件](#)
- [VMware vCenter の要件](#)
- [サポートされているストレージタイプ](#)
- [サポートされるデスクトップオペレーティングシステム](#)

Sun Ray Software での動作が確認されている周辺装置の最新リストについては、[Sun Ray 周辺装置リスト](#)を参照してください。

その他のサポートソフトウェア

Oracle VDI で使用できるその他のソフトウェアについては、次のリンクからダウンロードできます:

- [Oracle Linux](#)
- [Oracle Solaris 10](#)
- [Oracle Virtual Desktop Client](#)
- [Oracle Secure Global Desktop](#)

サポートドキュメント

その他のソフトウェアの詳細は、次のリンクを参照してください:

- [Sun Ray Software 製品ドキュメント](#): Sun Ray Software、Sun Ray Windows コネクタ (uttsc)、および Oracle Virtual Desktop Client のリリースノート、インストール、構成、および管理に関する情報です。
- [Oracle VM VirtualBox ドキュメント](#): VirtualBox のユーザーおよび開発者向けドキュメントです。

- [Oracle Secure Global Desktop ドキュメント](#): Oracle Secure Global Desktop のリリースノート、インストール、構成、および管理に関する情報です。

第2章 既知の問題

目次

2.1. Oracle Solaris プラットフォームに VirtualBox をインストールするときシステムがハングアップする (Sun バグ ID 7116094)	7
2.2. Oracle Linux プラットフォームでは Hyper-V デスクトッププロバイダ用のテンプレートをインポートできない (バグ ID 12307034)	7
2.3. 「コンソールはすでに使用されています」という警告が表示されるべきときに表示されない (バグ ID 12364760)	8
2.4. ストレージがシャットダウンされると仮想化ホストがクラッシュする (バグ ID 13557337)	8
2.5. 奇妙な Bash プロンプトによって SSH 接続が切断される (バグ ID 13572569)	8
2.6. テンプレートのインポート中にストレージホストが応答していないと表示される (バグ ID 13639979)	8
2.7. VirtualBox ユーザーが root でない場合、ストレージの追加に失敗する (バグ ID 13681074)	9
2.8. vb-install スクリプトですべてのユーザーの VM がチェックされない (バグ ID 13732353)	9
2.9. 16T バイトより大きいストレージの容量が 16T バイトしかないように表示される (バグ ID 13824735)	9
2.10. 正しく構成されていない場合でも Sun Ray Software のパスワード変更の成功メッセージが表示される (バグ ID 13827545)	9
2.11. パスワードのリセット中にパスワードが端末に表示される (バグ ID 13827959)	9
2.12. テンプレートファイルがルートディレクトリにあるとテンプレートのインポートが失敗する (バグ ID 13914962)	10
2.13. NLA が有効になっている RDP プローカで uttsc が機能しない (バグ ID 13924760)	10
2.14. 追加操作の進行中に VirtualBox ホストをデスクトッププロバイダに追加すると問題が発生する (バグ ID 13944126)	10
2.15. ストレージを保守モードにするときに umount が失敗すると、試行し続ける (バグ ID 13970448)	10
2.16. Red Hat カーネルを使用する Oracle Linux ホストで Windows 7 デスクトップが起動に失敗する (バグ ID 13974640)	10

2.1. Oracle Solaris プラットフォームに VirtualBox をインストールするときシステムがハングアップする (Sun バグ ID 7116094)

状況によっては、Oracle VM VirtualBox をインストールするときシステムがハングアップします。

この問題は、Oracle Solaris 10 8/11 (update 10) を実行する、Sun Fire X4470 M2 などの大規模サーバーに影響を与えます。

VirtualBox をインストールするには、システムに IDR (Interim Diagnostics and Relief) を適用する必要があります。詳細については、My Oracle Support の [ナレッジドキュメント ID 1451285.1](#) を参照してください。

2.2. Oracle Linux プラットフォームでは Hyper-V デスクトッププロバイダ用のテンプレートをインポートできない (バグ ID 12307034)

Oracle Linux プラットフォーム上の Oracle VDI では、`iscsi-initiator-utils` パッケージが必須です。このパッケージを使用して、iSCSI イニシエータファイル `/etc/iscsi/initiatorname.iscsi` を作成します。このファイルがないか、空の場合は、データベースエントリの空白にしてはならないフィールドの値が空白になり、そのために Hyper-V デスクトッププロバイダ用のテンプレートのインポート時に `NullPointerException` が発生します。

回避方法は次のとおりです：

1. iSCSI イニシエータファイルが存在し、空でないことを確認します。

`cat` コマンドを使用して、ファイルの内容を確認します。次に、正しく構成されたファイルの例を示します。

```
# cat /etc/iscsi/initiatorname.iscsi
InitiatorName=iqn.1994-05.com.redhat:bd25643d1f24
```

2. iSCSI イニシエータファイルを作成します。

`iscsi-initiator-utils` パッケージをインストールまたは再インストールすることによって、iSCSI イニシエータファイルを作成でき、また、コマンド行で生成することもできます。

別途提供された `.rpm` ファイルから `iscsi-initiator-utils` パッケージをインストールする場合は、インストール時に `--noscript` オプションを使用すると必要な一部のファイルがインストールされなくなるため、このオプションは使用しないでください。パッケージをインストールするには、`root` ユーザーで次のコマンドを実行します:

```
# rpm -ivh --nosignature iscsi-initiator-utils-<version>.rpm
```

コマンド行でファイルを生成するには、`root` ユーザーで次のコマンドを実行します:

```
# printf "InitiatorName='iscsi-iname'\n" > /etc/iscsi/initiatorname.iscsi
```

3. iSCSI デーモンを再起動します。

`root` ユーザーで次のコマンドを実行します:

```
# /etc/init.d/iscsi stop  
# /etc/init.d/iscsi start
```

2.3. 「コンソールはすでに使用されています」という警告が表示されるべきときに表示されない (バグ ID 12364760)

あるデスクトップで2つ目のコンソールを開くと、以前は「コンソールはすでに使用されています」という警告が表示されていました。このメッセージが表示されるべきときに表示されません。たとえば、VirtualBox デスクトッププロバイダとプールを作成し、デスクトップをインポートしてクローニングした場合に、デスクトップのキオスクセッションを取得し、そのデスクトップのコンソールを管理 GUI から起動すると、`ctrl + alt + del` 画面が表示されますが、警告は表示されません。

2.4. ストレージがシャットダウンされると仮想化ホストがクラッシュする (バグ ID 13557337)

ストレージホストがシャットダウンされた (またはクラッシュした) 場合、関連付けられている Oracle Cluster File System バージョン 2 (OCFS2) ファイルシステムがまだ仮想化ホストにマウントされていると、仮想化ホストがクラッシュします。

ストレージホストをリポートする必要がある場合は、まずストレージの**保守モード**を有効にしてください。これにより、Oracle VDI はデスクトップを別のストレージホストに移行でき、OCFS2 ファイルシステムをマウント解除できます。ストレージが保守モードになったら、リポートできます。

この問題は、Sun ZFS ストレージまたは iSCSI ストレージのいずれかを使用する場合に、Oracle Linux プラットフォームの VirtualBox ホストに影響を与えます。

2.5. 奇妙な Bash プロンプトによって SSH 接続が切断される (バグ ID 13572569)

Oracle Enterprise Linux では、`root` のデフォルトのシェルは `bash` なので、VDI は `ssh` コマンドを発行したときに、ユーザーの `bash` 環境によって生成されたほかの文字、たとえば `$HOME/.bashrc` 内のスクリプトや別名などを受け取ります。それらのいずれかをエスケープ文字と解釈した場合、SSH 接続を切断します。たとえば、GUI で OEL 5.7 ホストを VirtualBox プロバイダとして追加しようとする、「ホストの追加中にエラーが発生しました」というメッセージが生成されます。

2.6. テンプレートのインポート中にストレージホストが応答していないと表示される (バグ ID 13639979)

テンプレートのインポートジョブの間、ストレージが使用可能であるにもかかわらずストレージホストが応答していないと表示されることがあり、重大な警告が表示されます。

特に、低速のネットワークでは、テンプレートのインポート中にストレージ使用率が 100% に達して、ほかのジョブを実行できなくなることがあります。テンプレートのインポートジョブが完了すると、ストレージホストのステータスは有効に戻ります。

2.7. VirtualBox ユーザーが root でない場合、ストレージの追加に失敗する (バグ ID 13681074)

VirtualBox をインストールするときに、そのホストで VirtualBox を実行するユーザーを指定します。Oracle Linux プラットフォームでは、VirtualBox ユーザーとして root を指定しないと、デスクトッププロバイダに Sun ZFS または iSCSI ストレージを追加することはできません。

Cacao のログメッセージには、`iscsiadm` コマンドの実行のエラーがたとえば次のように表示されます:

```
com.sun.vda.service.api.ServiceException: Error executing command
'iscsiadm -m node -T iqn.1986-03.com.sun:02:ca4afc97-4ffc-67ba-bac6-e8992567cf34
-p 191.168.1.100:3260 -o new' on host '192.168.1.100': iscsiadm: Maybe you are not root?
```

Oracle Linux プラットフォームでは、Sun ZFS または iSCSI ストレージを使用するには、VirtualBox ユーザーは root である必要があります。

2.8. vb-install スクリプトですべてのユーザーの VM がチェックされない (バグ ID 13732353)

アップグレードまたはアンインストールを行うために `vb-install` スクリプトを実行すると、登録済みおよび実行中の VM のチェックが最初に行われ、それらの停止や登録解除が必要かどうかを確認されます。このスクリプト内で、`VBoxManage` が VM をチェックしますが、これは常に root ユーザーで実行され、root ユーザー用に構成されている VM だけを返します。VM の一覧表示、電源切断、またはほかの同様の機能を実行するには、以前に VirtualBox をインストールしたユーザーで `VBoxManage` を実行するようにしてください。

2.9. 16T バイトより大きいストレージの容量が 16T バイトしかないように表示される (バグ ID 13824735)

16T バイト (TB) より大きいストレージがある場合、Oracle VDI ではそのストレージに 16T バイトの容量しかないように表示されます。

バージョン 1.8 より前の Oracle Cluster File System バージョン 2 (OCFS2) のバージョンは、16T バイトまでのパーティションだけをサポートしています。Oracle VDI は、ストレージ上の OCFS2 パーティションをフォーマットするとき、構成エラーを防ぐためにパーティションサイズを 16T バイトに制限します。

この問題は、Sun ZFS ストレージまたは iSCSI ストレージのいずれかを使用する場合に、Oracle Linux プラットフォームの Oracle VM VirtualBox デスクトッププロバイダに影響を与えます。

2.10. 正しく構成されていない場合でも Sun Ray Software のパスワード変更の成功メッセージが表示される (バグ ID 13827545)

Sun Ray Software のパスワードには少なくとも 5 文字の長さが必要で、セキュリティの目的にはさらに長くすることをお勧めします。ただし、`vda-center setprops -s srs.password pw` を使用すると、パスワードをより短い任意の長さに設定することができ、その場合も成功メッセージが返されます。

2.11. パスワードのリセット中にパスワードが端末に表示される (バグ ID 13827959)

次のコマンドのいずれかを実行すると、既存のパスワードが端末ウィンドウにエコーされます:

```
# vda-center setprops -s srs.group.signature
# vda-center setprops -s srs.password
```

2.12. テンプレートファイルがルートディレクトリにあるとテンプレートのインポートが失敗する (バグ ID 13914962)

ほかのディレクトリからはテンプレートを想定どおりにインポートできますが、テンプレートファイルがルートディレクトリにある場合はインポート操作は失敗し、次のメッセージが表示されます:

```
Error importing: File copy failed for server ip_address.
```

2.13. NLA が有効になっている RDP ブローカで uttsc が機能しない (バグ ID 13924760)

uttsc ではネットワークレベル認証 (NLA) がサポートされていますが、RDP ブローカではサポートされていません。そのため、Oracle VDI のインストールと構成、Active Directory の会社とプールの作成、テンプレートのインポート、仮想マシンのクローニング、ユーザーへのデスクトップの割り当てなど、すべてを正しく行うことができて、セッションを取得できないことがあります。

回避方法は、`uttsc -N off` オプションで NLA を無効にすることです。

```
# /opt/SUNWuttsc/bin/uttsc -u username -d domain -p -N off Server_ip_address_or_host_name
```

2.14. 追加操作の進行中に VirtualBox ホストをデスクトッププロバイダに追加すると問題が発生する (バグ ID 13944126)

Oracle VM VirtualBox デスクトッププロバイダにホストが 1 つ追加されている場合、ストレージの既存の追加ジョブがまだ進行中のときに別の VirtualBox ホストを追加しようとすると、2 つ目のホストにはストレージのマウントポイントが作成されず、Cacao のログに例外が出力されます。

この状況を防ぐには、次のいずれかを行います:

- 別のストレージホストを追加しようとする前に、ストレージの追加ジョブが正常に完了したことを確認する必要があります。
- デスクトッププロバイダにストレージホストを追加する前に、すべての VirtualBox ホストを追加します。

2.15. ストレージを保守モードにするときに umount が失敗すると、試行し続ける (バグ ID 13970448)

ストレージホストを保守モードにすると、`ocfs2` ディレクトリに対して `umount` が呼び出されます。何らかの理由で `umount` 操作が失敗した場合、再試行が無限に繰り返されます。複数のストレージホストが構成されている場合、これは複雑になる可能性があります。

ただし、ストレージホストを VBox ホストから手動でマウント解除することによって回避できます。次の例は、VBox ホストに root ユーザーとしてログインしたあとで使用する手順を示しています:

```
# cd /vdi/  
# umount storage_directory
```

2.16. Red Hat カーネルを使用する Oracle Linux ホストで Windows 7 デスクトップが起動に失敗する (バグ ID 13974640)

Windows 7 仮想マシンは、正しく動作するために非同期 I/O を必要とします。

Oracle VM VirtualBox 仮想化ホストのプラットフォームとして Oracle Linux が使用されている場合、iSCSI および Sun ZFS ストレージタイプは Oracle Cluster File System バージョン 2 (OCFS2) を使用して構成されます。バグが原因で、Red Hat カーネルで 사용되는場合 OCFS2 は非同期 I/O をサポートしません。Oracle Unbreakable Enterprise Kernel を使用している場合は、このバグは OCFS2 に影響を与えません。

その結果、VirtualBox ホストのプラットフォームとして Oracle Linux を使用する場合は Unbreakable Enterprise Kernel を使用する必要があります。Red Hat カーネルはサポートされていません。

これによって次のような影響があります:

- Unbreakable Enterprise Kernel を使用する場合は、バンドルされている VirtualBox リリースのインストールにのみ [vb-install](#) スクリプトを使用できます。
- [単一 Oracle VDI ホスト構成](#) モデルは、Unbreakable Enterprise Kernel を使用する場合のみサポートされます。

第3章 フィードバックとサポート

目次

3.1. フィードバックの提供と問題の報告	13
3.2. Oracle スペシャリストによるサポートへの連絡	13
3.3. サポートバンドル	13

この章には、Oracle Virtual Desktop Infrastructure (VDI) 製品に関するフィードバックの提供方法およびサポートへの問い合わせ方法の情報が記載されています。

3.1. フィードバックの提供と問題の報告

質問を送ったりフィードバックを提供したりするには、Oracle VDI チームおよびコミュニティ ([Virtual Desktop Infrastructure and Sun Ray Clients General Discussion](#)) にご連絡ください。Oracle VDI チームやコミュニティに投稿しても、回答が保証されるわけではありません。バグに対する修正が必要であり、Oracle Software Premier Support を契約している場合は、<https://support.oracle.com> の Oracle サポートでケースを開くようにしてください。

バグを報告する場合は、次の情報を提供してください (該当する場合):

- 問題が発生した状況や操作への影響などを含む問題の説明。
- マシンの種類、オペレーティングシステムのリリース、ブラウザの種類とバージョン、ロケールと製品のリリース (適用済みのすべてのパッチを含む)、および問題に関連すると考えられるその他のソフトウェア。
- その問題を再現するため、使用した方法の詳細な手順。
- エラーログまたはコアダンプ。

3.2. Oracle スペシャリストによるサポートへの連絡

Oracle カスタマーサポート識別子 (CSI) を持っている場合は、最初に My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) を使用して問題の解決を試みてください。Oracle Premier Support CSI には、カスタマイズのサポート、サードパーティーソフトウェアのサポート、サードパーティーハードウェアのサポートは含まれていません。

問題を解決できない場合は、Oracle スペシャリストサポートチームでケースを開き、本稼働後の問題に対する技術サポートを依頼します。対応するサポート技術者にはまず次の情報が必要になります:

- お客様の Oracle カスタマーサポート識別子。
- 依頼対象である製品。
- 支援を受けたい問題についての簡単な説明。
- ログ、または所有しているサポートバンドル (詳細は、「[サポートバンドル](#)」を参照)。

CSI が不明な場合は、お住まいの国の適切なサービスセンターを検索してから (<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>) Oracle サービスにお問い合わせいただき、技術以外のサービス要求 (SR) を開いて CSI を取得します。CSI を取得したら、My Oracle Support でケースを開く処理に進むことができます。

3.3. サポートバンドル

Oracle VDI では、Oracle VDI Center の各ホストのログファイルとシステム構成を含むサポートバンドルを生成できます。Oracle サポートは、この情報を使用して、システムの問題の分析および診断を実行できます。

管理者は `vda-center bundle-create` コマンドを使用してサポートバンドルを生成します。Oracle サポートがさらに分析できるように、サポートバンドルファイルをアップロードできます。

サポートバンドルの生成

新しいサポートバンドルを生成するには、Oracle VDI Center の任意のホストで、root ユーザーで次のコマンドを実行します：

```
# /opt/SUNWvda/sbin/vda-center bundle-create

Creating support bundle for Oracle VDI Center "VDI Center"
A support bundle will be created on each host before collecting them together.
+ Start support bundle creation on vdi1.example.com...
+ Start support bundle creation on vdi2.example.com...
+ Done (vdi1.example.com)
+ Done (vdi2.example.com)

Collecting support bundles
+ Get support bundle from vdi2.example.com...
+ Done (269714541 Bytes moved.)

Creating archive of support bundles
+ Creating tarball...

The support bundle is located at '/var/tmp/VDI-Center-11_05_29_17-09-22.tar.'
```

デフォルトでは、このコマンドは Oracle VDI Center の各ホストでサポートバンドルを作成します。各サポートバンドルが作成されるまでには数分かかる場合があります。すべてのサポートバンドルが作成されると、サポートバンドルはコマンドが実行されたホストにコピーされます。すべてのサポートバンドルは 1 つの tar アーカイブにまとめられ、デフォルトでは `/var/tmp` に格納されます。

サポートバンドルは、Oracle VDI Center のホストにリモート通信する場合に、Oracle VDI Center エージェントを使用します。ネットワークの問題などのためにホストに接続できない場合は警告が表示され、接続できるホストのみのサポートバンドルが作成されます。

`vda-center bundle-create` コマンドの動作は、次の 1 つ以上のオプションを使用して調整できます：

```
vda-center bundle-create [-l|--localhost]
                        [-h <host1>,<host2> | --host=<host1>,<host2>]
                        [-d <directory> | --directory=<directory>]
                        [-v |--verbose]
                        [-g |--get]
                        [-b |--backup]
                        [<file name>]
```

オプション	説明
<code>-l</code>	コマンドを実行したホストのみのサポートバンドルを生成します。 そのホストで Oracle VDI Center エージェントが実行しなくなっている場合でも、このオプションは機能します。
<code>-h <host1>,<host2> ...</code>	指定したホストのみのサポートバンドルを生成します。
<code>-d <directory></code>	サポートバンドルを格納するための別のディレクトリを指定します。 指定するディレクトリはすべてのホストに存在する必要があります。 セキュリティ上の理由で、これは <code>/tmp</code> 、 <code>/var/tmp</code> 、 <code>/var/run</code> 、または <code>/var/opt/SUNWvda</code> の中のディレクトリまたはサブディレクトリである必要があります。
<code>-v</code>	サポートバンドルが作成されるときに、追加情報メッセージが出力されます。
<code>-g</code>	ホストからサポートバンドルを取得しますが、1 つの tar アーカイブにまとめません。
<code>-b</code>	サポートバンドルに Oracle VDI の完全なバックアップデータを含めます。 このオプションは、Oracle VDI データベース全体の内容をエクスポートして、サポートバンドルに含めます。
<code><file name></code>	tar アーカイブの名前を指定します。

オプション	説明
	名前を指定しない場合、デフォルトでは <center name>-<date> という名前が使用されます。

サポートバンドルのアップロード

サポートバンドルは supportfiles.sun.com にある Oracle サポートのファイル転送サービスを使用してアップロードされます。Oracle サポートから別のメカニズムを使用してアップロードするように要求される場合があります。2G バイトまでのファイルには、標準のブラウザと HTTP または HTTPS プロトコルを使用してファイルをアップロードします。それより大きいファイルには FTP プロトコルを使用します。

1. ブラウザまたは FTP クライアントを使用して、supportfiles.sun.com に移動します。
2. アップロードするサポートバンドルファイルを選択します。
3. ファイルの転送先を選択します。

Oracle サポートがほかのディレクトリを要求した場合を除き、[cores](#) ディレクトリを選択します。

4. ファイルのケース番号を入力します。

Oracle サポートは、サービス要求が開かれたときにケース番号を提供します。ケース番号を入力すると、ファイルがサービス要求と正しく関連付けられます。

5. 「アップロード」ボタンをクリックしてファイルをアップロードします。

アップロードの進捗状況が表示されないブラウザもあります。

転送がリスタートされるため、「アップロード」ボタンを複数回クリックしないでください。

アップロードが完了すると、確認メッセージが表示されます。

確認メッセージには、アップロードされたファイルのフルパスが含まれます。ファイルが適切なケース番号と関連付けられなかった場合に Oracle サポートにファイルのフルパスを伝えられるように、この情報を書きとめます。

